



さんびょう6

三錨VI

本気に 元気に 根気よく

四日市市立富洲原小学校
学校だより

No. 20

平成29年 12月15日

教師が走ると書いて「師走」。文字通り、学期末の忙しい時期を過ごしています。子ども達もまとめの時期で、テストや課題の仕上げなど、最後のひとがんばりをしてきたところでしょう。

「子どもは風の子」と言いますが、寒い中でも休み時間には、多くの子ども達が運動場で元気よく遊んでいるのが頼もしいです。最近、縄とびが静かにブームになってきました。



◇助かりました「クリーン大作戦」



12月5日の11時頃から、富洲原中学校の3年生の生徒さんたちが来校し、「クリーン大作戦」と銘打って、落ち葉の清掃をしてくださいました。ご存知のように、本校の北校舎沿いには、立派なイチョウの並木があります。その紅葉は見事で、すずかけの並木とともに、本校の象徴の一つとなっています。でも、この季節になると、黄色く色づいた落ち葉が、毎日毎日、取った先から落ちてきます。そこでこの日は、中学生のみなさんに、地面に降り積もった落ち葉を、きれいに掃除していただきました。さすが中学生、側溝のふたも次々と上げて、て

きぱきと作業をしていただき、あっという間に落ち葉の入ったごみ袋が山と積まれました。この後は、保育園や幼稚園にも行かれたそうです。こんなところでも、保幼小中が一体となった富洲原地区の素敵な一面を見させていただきました。「クリーン大作戦」お疲れ様でした。そして、ありがとうございました。



◇ようこそ「地域先生」

4年生と6年生で、ゲストティーチャーを招いての授業を行いましたのでご紹介します。お二人とも、富洲原地区在住で、本校の卒業生でもあり、小・中学校と同級生だったとおうかがいしました。「地域先生」による2つの特別授業です。



【4年生 社会科「平次郎橋」について】

12月6日の5限目、本校のコミュニティスクールの委員である、平野貢さんにお越しいただきました。4年生が社会科で学習している「地域の発展につくした人々」の中で学んだ「伊藤平次郎」さんについて、詳しくお話しをうかがうためです。平野さんは、元小学校の校長先生で、現在は富洲原地区の歴史について、お仲間と一緒に研究されているそうです。

お話は、この地区に多い苗字や、「富洲原」という地名の由来、また日本と富洲原地区の、100年間の人口の変化の比較のお話から始まり、子ども達も興味深そうに聞いていました。現在3代目となった「平次郎橋」が、いつどのようにしてできたのかも、詳しく教えていただきました。この橋ができたおかげで、富田一色のみなさんは、富田駅方面へ行くのが随分楽になったそうです。

その他、富洲原地区に今も伝わる祭りや「四九の市」のお話。紡績業で三重県でもいち

早く工業化し、人口が増えて子どもの数も県下1・2を競うほど多かったお話。また、ご自身が子どもの頃、映画館や劇場がいくつかあってとてもにぎわっていたお話など、興味深く聞かせていただきました。



【6年生 人権学習】

12月11日（月）の4限目、6年生の人権学習のゲストティーチャーとして、宮田佳典さんに来校いただきました。宮田さんには、ここ数年6年生がお話を聴かせていただいています。また、10月にもお知らせしましたが、毎年学校に一輪車のご寄贈をいただいています。

ご存知の方も多いと思いますが、宮田さんは地域で、葬祭業を営んでおられます。お父様の代から70年になるそうです。お父様と一緒に働いてみえたころ、貯金箱を壊して、困ったように葬儀のお金はこれだけしかないと言われた方があったそうです。その方にお父様が、「え

えわ、出世払いや！」と言われ、とても感謝された姿を見て、ええ仕事やなと思われたこと。また、葬祭業に関わって、これまで受けてきた差別的な言動のお話。特に結婚にまつわる辛かったお話。六曜やお清めの塩、霊きゅう車などの迷信も、今はこだわる方も減ってきたお話など、明るくお話いただきましたが、子ども達一人ひとりの心に響くお話だったと思います。

お話の後、何でも聞いてくださいとのことでしたので、子ども達からいくつか質問がありました。やめたいと思ったことはないですか？こんなときよかったなと思うときは？差別されたときはどれくらい悲しかったですか？等の質問がありました。

正直やめたいと思ったこともあります。3日くらい涙で枕を濡らしたこともあります。でも、その後はずっと忘れて、またがんばろうと……。葬儀が終わって、遺族の方に感謝されたときが一番うれしいです。今は、こんないい仕事はないと思っています。天職だと思ひ、この仕事に誇りをもっています。

文字にすると正確に伝わらないかわかりませんが、宮田さんからは、そんな思いのこもった言葉を聞かせていただきました。私事（校長）ですが、この2日前に、86歳で亡くなった叔父の葬儀が、愛知県であったところでした。小さい頃よくかわいがってもらった大好きな叔父でした。別れは辛かったですが、最期に身内のものでお別れの機会を持ち、故人を偲びながらきちんと送ってあげられたのも、葬儀に関わってくださった方々のお蔭だと、改めて感謝の思いが湧いてきました。最期は誰もが世話になる、本当に大事なお仕事だと思います。子ども達のために、心に響く貴重なお話をありがとうございました。

今回は、4年生と6年生にお話いただきましたが、コミュニテイスクールとして、今後も地域のみなさんとの連携がますます広がり、深まっていくことを願っています。

◇2学期最後の食育授業

12月11日（月）の3限目、4年生の食育授業があり、学校栄養職員の林先生（大谷台小在籍）に授業をしていただきました。

1・2学期をかけて、全学級で各学年に応じた食育授業を行い、この日が2学期最後の授業でした。

この日のテーマは、「給食のごみについて考えよう」です。給食に関わって、毎日いろいろなごみが出てきます。まずどんなごみがあるか、みんなで考えました。野菜の切りくず、煮物から出た灰汁、食材や調味料やデザート等が入っていた容器・缶、牛乳パック、そして、食べ残した残菜などがあることがわかりました。次に、ごみの中ででも残菜を減らすために、自分たちができることは何かを考えました。子ども達の中からは、好き嫌いをしない。おしゃべりをせず食べる。休み時間に運動をしておなかをすかしておく。嫌いなものから先に食べるなど、いろいろな考えが出されました。残菜を少しでも減らすために、心掛けや工夫で改善できることがあれば、自分たちで意識していきたいと思います。今日は、そのよいきっかけになったのではないのでしょうか。

